

第 60 号



2016 年度総会特別号

土木技術者女性の会 とは

〈団体名〉

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers

〈会の生い立ち〉

土木学会誌(1982年9月号)紙上で企画された「女性土木技術者の座談会」がきっかけで1983年1月に発足しました。座談会の席上で、「日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できるような会を…」ということになり、同誌紙上で呼びかけ、約30名でスタートしました。

創立以来、任意団体として活動してまいりましたが、2013年11月18日(土木の日)に一般社団法人土木技術者女性の会として新たに発足しました。

〈会の目的〉

土木学会誌の座談会をきっかけにしていますが、女性土木技術者特有の問題をきめ細かく取り上げ対応していくために、独立した団体として活動しています。

女性技術者の質の向上と活動しやすい環境作りのために、次のような目的を掲げています。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

〈倫理規定〉

当会では次のような倫理規定を定めています。

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規定を遵守するものとする。

1. 会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする
2. 会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する
3. 会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない

〈会誌「輪(りん)」について〉

1983年に開催された第1回総会にて、会誌の名前についても話し合いが行われています。

「輪」の文字は、「友達の輪」という発想より早々に決まりました。

そして、「りん」という言葉の響きの心地よさと会員同士のつながりを大事にしたいという思いを込めて名付けられました。

(1983年 第一回総会議事録・参加者証言抜粋)

目次

01 巻頭言 : 渡辺 弘子「自分ネーム」をつけていこう!

02 特集 1★一般社団法人土木技術者女性の会 第 4 回総会 開催報告

03 | 一般社団法人土木技術者女性の会 第 4 回 総会報告

04 | 懇親会レポート「第 4 回総会 懇親会」

05 | 現場見学会レポート「井戸浦CSG防波堤作業所」「緑の防潮堤」
土木学会東北支部との合同見学会

08 | 参加者の感想

永村景子/広野 彩/南 朋恵/中西利美

12 | オマケ「ザ・ホームページクイズ」

15 特集 2★“見える化”土木技術者女性の会:運営委員会

15 | これが運営委員会だ!

16 | (一社)土木技術者女性の会 組織図

18 ちょっと一息 ～おすすめ防災グッズ～

20 会員レポート ～土木体験いろいろ～

20 | 私の震災体験記 / 武田利江

22 | 長大橋に憧れて / 松浦 葵

23 | おもしろがって、おもしろがられて、いまに至る / 阿部友美

24 イベント報告

27 【イベント報告】東日本支部

じゅうたく小町のみなさんとの交流会

28 【イベント報告】西日本支部

国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所主催 座談会
『省力化を図る労働環境イノベーション』

- ・メディア掲載
- ・サポーターおよび新規会員募集
- ・寄附制度のご案内

編集後記





「自分ネーム」をつけていこう！

会長 渡辺 弘子

6月の総会をもって、第6代会長に就任しました。みなさん、これからよろしく願いいたします。

4月には女性活躍推進法が施行され、ますます女性の活躍が期待されるようになりました。社会制度の変革とともに、人々の意識も変わりつつあるのかもしれませんが、それは一言でいえば「女性」ではなく「個人」に注目し始めたということです。そんな時代に居合わせた幸運を活かすには、私たちの会も新たな局面を迎える必要があります。

ここでちょっと例え話をします。みなさん、今治タオルをご存知でしょう。今や高級かつ高品質タオルの代名詞です。確かにタオルとしては高価ですが、いちど使ったら手放せない品質の良さがあります。もともと今治市は一大織物産地でした。それが1980年代後半から安い輸入品の激増で、日本のタオル業界ともども今治タオルも苦境に立たされます。一時、生産量はピーク時の5分の1にまで落ち込んだそうです。そんな今治タオルが奇跡的に復活したのは、「安全・安心・高品質」という今治タオルが持つ本質的な価値を認めなおし、それを戦略的に広めていったことが勝因と言われています。その初期戦略の一つに「製品には『今治タオル』のロゴしか付けない」という作戦がありました。各メーカーの商品名などを示すネームを付けないのです。これは「今治タオル」というブランドの良さを認知してもらうためでした。「このタオルが素晴らしいのは『今治タオル』だから」。そのブランド力のイメージが浸透する前に各メーカーのネームをつけると消費者の混乱を招きます。ですので「今治タオル」の良さが認知されるようになってはじめて、今治タオルのロゴの横に各メーカーのネームを付けるようになりました(*)。

私たち女性土木技術者も、人数が少なく真価が認められにくい時代には、女性の会というロゴの元に団結しているほうが社会からの認知度を高めることに有利な面がありました。でも、機は熟しました。いま私たちには追い風が吹いています。会員ひとりひとりが自分の中の「強み」を見つけ、それを活かし、「個人」というネームをつけて活躍する時代の到来です。既にここ数年、会員個々人の活躍が目覚ましいことは実感されているでしょう。



いつも横には
仲間のロゴが

より多くの方々に私たちの活動を知っていただき、また、ご支援いただけるように、今年新たに企画広報局を設置しましたし、サポーター制度を拡充して、老若男女・個人、団体、どなたでもサポーターになっていただけるようにしました。会としての後方支援体制はこれからも整えていきます。加えて私たちの横には、行き詰ったり淋しくなったりした時に手を差し伸べてくれ、嬉しかったりちょっと自慢したかったりする時に笑って話を聞いてくれる「仲間」というロゴが変わらずいつも付いています。

さあ、みなさん、「自分ネーム」をつけて自信をもって羽ばたいていきましょう！

*)『今治タオル 奇跡の復活』佐藤可士和、四国タオル工業組合、朝日新聞出版、2014年

特集 1

一般社団法人土木技術者女性の会 第4回総会 開催報告

担当: 東日本支部

日にち: 2016 年 6 月 17 日(金)・18 日(土)



2016.06.17 13:00-18:00

現場見学会 →p.5

- 「井土浦CSG防波堤作業所」「緑の防潮堤」
土木学会東北支部との合同見学会



2016.06.17 18:30-20:30

懇親会 →p.4

- SK7仙台東口店



2016.06.18 09:30-12:30

一般社団法人土木技術者女性の会 第4回総会 →p.3

- 前田建設工業(株) 東北支店 会議室
- 総会終了後、運営委員会を開催

- **参加者の感想** →p.8

- **オマケ** →p.12



一般社団法人土木技術者女性の会 第4回 総会報告

- 日時:2016年6月18日(土) 9:30 - 12:30
- 場所:前田建設工業(株) 東北支店 会議室
- 出席者 40 名、委任状提出者 63 名 計 103 名 (当日の会員数 260 名)

一般社団法人土木技術者女性の会は、代表理事を桑野玲子会長とする社員 3 名の法人として、2013 年 11 月 18 日の土木の日に設立されました。その後、2014 年 3 月に第 1 回総会が開催され、基本的な条項について決定した後、同年 6 月に第 2 回総会を開催し、直前に解散となった(任意団体)土木技術者女性の会の事業及び資産を引き継ぎ、活動することとなりました。

その後毎年 1 回総会を開催し、今後の会の活動の方向性を検討する重要な場となっています。今年も多く質疑がなされましたが、すべての議案について了承され、総会は無事閉会しました。

●議事次第

開会

I はじめに

- 1 会長挨拶(桑野玲子)
- 2 議長選出
- 3 総会成立の宣言

II 議案審議

- 第 1 号議案 理事の承認について
- 第 2 号議案 2015 年度 事業報告
- 第 3 号議案 2015 年度 決算報告
- 第 4 号議案 定款の改正について(案)
- 第 5 号議案 ワーキンググループの設置について(案)
- 第 6 号議案 運営委員及び会計監査委員の選任について(案)
- 第 7 号議案 2016 年度 事業計画(案)
- 第 8 号議案 2016 年度 決算計画(案)

- 第 1 号報告 理事選挙の結果について
- 第 2 号報告 執行体制の見直しについて
- 第 3 号報告 顧問制度の設立について
- 第 4 号報告 会費の検討について

次回・次々回の総会担当支部確認

次回の総会(2017 年度)は中部支部が担当であることを確認した。また、次々回の総会(2018 年度)は西日本支部が立候補し、了承された。

閉会

●質疑応答

○第 2 号議案について

質問 1)各支部等の会計報告で、その他の支出が 20 万円超などの大きい金額の場合は内訳を簡単に記述するようにして欲しい。

回答 1)来年度以降、他の支出に比べて金額の大きいものは内訳を記入するようにしたい。(事務局)

○第 4 号議案について

質問 2)総会の出欠または委任状提出の前に、総会の議題が分かるようにして欲しい。

回答 2)総会資料を確認後に出席の連絡を頂くことも可能である。議題をメールニュースなどで事前に周知するよう努力する。(事務局)

懇親会レポート「第 4 回総会 懇親会」

日時:2016 年 6 月 17 日(金)18:30-20:30 場所:SK7(さかな)仙台東口店 参加者:32 名

非常に充実した見学会の後、かつ、活発な議論が展開される総会の前夜、というシチュエーションにおいて、いかに懇親会を盛り上げるか、と準備を進め、今年は「ザ・ホームページクイズ」なる新企画を取り入れました(クイズの詳細はP-12)。32 名の出席者をくじ引きで 6 チームに分けての対抗戦。古株にしかわからない総会写真クイズ、活躍する会員が受けた取材のコメントや土木技術者女性の会ウェブサイトから設定した設問に、各チームとも即席と思えぬチームワークで大いに盛り上がりました。また、各支部から近況報告もいただきました。





その後の二次会にも、ほとんどの方が参加され、仙台のお酒と肴に、時間の許すかぎり話に花を咲かせました。偶然にも、見学会でお世話になった東北地方整備局の男性職員2名も合流し、マイノリティの立場を経験していただきました。

さらに、残った酒を抱えて、三次会に行かれたグループもあったとか。けれども翌朝の総会では、疲れたそぶりはまったく見せずみなさまシャキッとされていました、流石です。

東の間の仙台の夜を存分にお楽しみいただきましたでしょうか、みなさま大変ありがとうございました、お疲れさまでした。



報告：小林千佳(東日本支部)

現場見学会レポート「井戸浦CSG防波堤作業所」「緑の防潮堤」 土木学会東北支部との合同見学会

日時：2016年6月17日(金)13:00-18:00 参加者：97名(当会会員 25名)

総会前日に現場見学会を開催しました。この日の仙台は雲一つない好天に恵まれました。今年の現場見学会は、土木学会東北支部との共催として位置付け、バス2台をチャーターし、約100名の参加者の中に土木技術者女性の会の会員25名が混ぜていただくという形式としました。

国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所が所管している「仙台湾南部海岸堤防復旧プロジェクト」のうち、「井戸浦CSG堤防作業所」と「緑の防潮堤」の2箇所を見学させていただきました。

● 緑の防潮堤



宮城県岩沼市は、海岸堤防等の集中的な復旧・復興事業に併せて、岩沼臨空流通工業団地や二の倉工業団地を早期に復活し、地域の速やかな震災復興に尽力してきたことで知られています。緑の防潮堤の祈念施設内には、岩沼市が震災直後から住民との議論を重ね、合意形成を築きながら、迅速な復旧に向けて取り組んできた様子が放映されていました。さらに、圃場整備や集団移転先等の造成、復興公営住宅の整

備とともに、全国の先進地として緑の防災・減災(千年希望の丘等)を取り入れた魅力ある復興まちづくりを推進しています。「緑の防潮堤」はそんな岩沼市の緑による防災・減災を図る事業の一環として、国土交通省が整備を進めているものです。

残念ながら、防潮堤までは距離があり、足を運ぶことはできませんでしたが、事業概要を聞くことができました。「千年希望の丘」の一つに登り、防潮堤の遠景を望むとともに、改めて東日本大震災の大津波の状況に思いを寄せました。

「千年希望の丘」とは、大津波の際に、岩沼海浜緑地内に存在していた築山に登って助かった方がいたことを教訓に、岩沼市が進めているプロジェクトです。「いのちを守る」「大震災を伝える」「希望を感じる」「みんなでつくる」というコンセプトの元に海岸に15基の丘(φ60~100m、高さ10m)を築いています。岩沼市では、緑を活用した海岸部の復興にも取り組んでおり、植樹祭等も実施しています。何十年も何百年も後、この海岸部に樹木が生い茂り、津波による被害の「減災」に備えている、そんな姿を思い浮かべ、それがまさしく現代の私たちが将来のために播くことのできる種なのだなと感じました。



「千年希望の丘」の上での記念撮影

● 井戸浦CSG防波堤作業所



国内で3番目の事例であるCSG (Cemented Sand and Gravel)材を用いた堤体構築現場です。CSGとは、手近に得られる岩石質材料(風化岩、河床砂礫等)にセメントと水を混合したもので、材料のばらつきを考慮した配合を決定し、現場の設備で水+セメントと混合した材料を敷均し、締固め、養生します。ダムや堤防の永久構造物として用いることができ、施工の簡略化・高速化を可能としたものです。



作業所では、実際の構築現場と、混合設備の見学をさせていただきました。混合設備は、広大なヤードにおいて、受入ホッパーからベルトコンベアにより、ある程度の高さに運んだ材料を、M-Y ミキサで落下させながら混合し、ダンプトラックへの積み込みホッパーまで再びベルトコンベアで運ぶ、というダイナミックな設備です。M-Y ミキサの階層と構造により、材料の混合が可能な装置です。前田建設工業(株)の秦所長より模型を使って説明していただきましたが、実際の部屋の構造がどのようなになっているのか、みな興味津々でした。

M-Y ミキサ。この落差と部屋の構造により材料が混合される構造。なんともダイナミック



女性用の仮設トイレ

なお、前田建設工業(株)の作業所には、今話題の、女性用の仮設トイレと女性専用現場休憩所がありました。トイレを利用させていただきましたが、それほど華美ではなく、簡易ながら内装がきれいで気持ちよく、現場で女性が受け入れられていると感じることができるうれしい設備でした。

東日本支部では、2年前にも「仙台湾南部海岸堤防復旧事業」を見学しました。今回再び海岸復旧工事を見学し、復興が確実に進んでいるとともに、復興事業そのものがより一層地域に定着していることからわかるように、この2年という月日が捉えようによってはあまりにも短く感じてしまうほど、震災の残した爪痕が大きいことを、改めて肌で感じました。

報告：小林千佳(東日本支部)



参加者の感想



●女性技術者の真髄、「本気の議論」 in 仙台

永村 景子（東日本支部）

今年の5月末に入会し、会員としての初めてのイベント参加が2016年度の総会となりました。千葉からの日帰りのため、早起きして新幹線に乗り、いざ仙台へ。久しぶりの「女性ばかりの世界」にちょっぴりドキドキしながら、会場へと向かいました。会場に着くと女性ならではの華やかな雰囲気。各地のお土産が並び、ワイワイ和やかな様子の会場とは裏腹に、かなり緊張してしまいました。総会が始まるまでしばらく様子をうかがっていましたが、華やかな中に垣間見える、たくましさ…。これが女性技術者ならではの空気感だろうか、と勝手な妄想を巡らせていると、いよいよ総会が始まりました。

総会が始まると、想像をはるかに上回り、侃々諤々、妥協のない議論が繰り広げられました。もはや“空気感”などという浮ついた言葉では生温い女性技術者の芯の強さとしなやかさを、ビシビシと感ずることとなりました。女性技術者が活躍できる環境は、こうした「本気の議論ができる場」があって整ってきつつあるのだ、との確信を得る会議となりました。前日の現場見学会に参加できず、当日朝はとても残念な気持ちで仙台に向かったものの、会議を終えると、とてもすがすがしい気持ちで帰京することが出来ました。

大学院の修了式翌日に「Civil Engineer への扉」を手にして早10数年が経過。このたび、現職(日本大学生産工学部)に着任したのを機に、「学生と女性技術者の橋渡しをしたい!」との思いから入会しましたが、これからの活動を私自身も楽しもうと、心から思える、そんな「かつて経験したことのない総会」でした。ぜひ自分も、「女性技術者です!」と胸を張れる女性になれるよう、みなさまのパワーをいただきつつ、私もこの輪に入って何かお役に立てれば…そんな風に思えた総会でした。

●念願の震災復興現場の見学

広野 彩（西日本支部）

昨年に続き、2度目の参加となりました。仙台はこれまでの人生で1度も訪れたことがなく、また震災復興の現場を拝見できるということで、この総会を楽しみにしておりました。初日の大阪→仙台的移動はスムーズに行き、現場見学会の集合場所では、懐かしい方々や西日本支部の面々にお会いできほつとしました。

現場見学会は、東日本大震災の被災地の中でも堤防復旧工事や防潮堤を拝見できるということで、今までにない緊張感を持っておりました。実は、数年前から被災地の様子を直接見たいと考えていたためです。土木技術者として何もできていない自分へのもどかしさを少しでも払拭したく、この日を心待ちにしておりました。

現場に近づくにつれて、震災・津波の傷跡は生々しく目に飛び込んできました。しかし、現場に到着すると立派な堤防が建設されていて少し安堵の気持ちを感じます。見学させていただいた「仙台湾南部海岸深沼南工区井土浦地区堤防復旧工事」は、現地にプラントを設置しての工事で、施工には CIM が活用されている最先端の現場でした。これらを見ただけでも、仙台に来た価値があると強く実感しました。このように最新の技術が投入され、1日でも早く品質の良い堤防が再び構築されることを心から願います。また、私自身にできることを日々考えて行く次第です。

さて、夜は肝心の懇親会です。まずは会場がオシャレ過ぎて・・・入店を戸惑うほどでした。今回は東日本支部のみなさまが趣向を凝らして下さり、当会にまつわるクイズ大会があったりとかなりの盛り上がりでした。「ザッツ女子会！」という感じで、はじめましての方・1年ぶりの方々と、楽しく過ごさせて頂きました。東日本支部の皆様、ありがとうございました。



そしてなんと言っても一部の強者のみで行われた3次会「全国一番搾り飲み比べ大会」！！ 全国から持ち寄ったご当地一番搾りをいただきました。あっさりから辛口まで、土地によっての違いを堪能しました。でも私は手ぶらだった…(笑)

2日目は濃厚な内容の総会と、個人的には滅多に会えない会社の同期(もちろん当会会員です)とも会えて楽しく過ごしました。昨年に続き、東北の味覚も堪能しつつ、技術者として、女性の会会員として、充実した2日間となりました。次回の総会は中部支部とのこと。また来年、みなさまにお会いできることを楽しみにしております！



全国から集まった一番搾りたち。

(左から、神戸・京都・大阪・滋賀・名古屋・静岡・横浜・千葉・東京・取手)



●総会に参加して 南 朋恵（北海道支部）

この春、北海道に異動となり、今回の総会へは帯広から参加することとなりました。もちろん、帯広から仙台への直行便はないので、新千歳空港から飛ぶことになります。午前5時発の高速バスに乗り、なんだかんだと仙台駅には午前10時過ぎに到着しました。少々遅刻しつつ午前の部(土木技術を語る会 土木学会東北支部主催)に参加し、お昼のカレーを一気飲みして午後の見学会に参加しました。

午前の部で防潮堤整備事業の概要を説明いただいていたので、現場の状況がすんなり入ってきました。CSG 工法を活用した防潮堤の整備については、静岡県の実例を聞いたことがあったのですが、実物の混合施設の大きさと高さに圧倒されました。そして、岩沼市の緑の防潮堤を見学した際には、

仙台出身の中部支部の中西利美さんから岩沼市の復興が優等生と呼ばれているほど進んでいる理由を教えてくださいました。郷土愛って、素敵な推進力になるんですね。

懇親会では、楽しくマニアックなクイズ大会で盛り上がりました。2次会には、見学会でお世話になった東北地方整備局の方にも参加いただき(ほぼ強引に引っ張り込んでいるようにも見えましたが・・・)楽しい時間を過ごすことができました。

翌日の総会では、会長をはじめとする理事の承認、会費の値上げ、顧問の設置が大きなトピックだったように感じました。個人的には理事選挙で活用したシステムを、会員の声を広く聴く手段として、もっと活用できればと思いました。



CSG工法の敷均し状況



千年希望の丘



●我が故郷で初開催の総会に感激 中西 利美（中部支部）

1983年1月に土木技術者女性の会第1回総会が土木学会会議室において会員数30名程度で開催されました(私もその総会に参加した一人です)。

そして今年、一般社団法人土木技術者女性の会の会員数260名となり、しかも第4回総会が我が故郷仙台(東日本支部)で初めて開催されました。東日本大震災の復興半ばの我が故郷です。見学会は、土木学会東北支部主催の「平成28年度土木学会東北支部現場見学会」に同行させていただきました。

なぜ第1回総会の年を記載したかというと、総会会場のドアの前で、初めて総会に参加される方が待っていて、「4回目の総会ですね」と話掛けられましたので“法人化されてからね”と答えたからです。その時、ビルの中からドアを開けていただいたので話は途切れしました。我が会は、4年程度の短い歴史の集まりではなく、少数派だった初めから、将来「女性」の文字が消える時がきつとくと信じ発足したことを書き記しておきたかったのです。今回の総会では男性にもサポーターとして門戸が開かれるよう規約が改正されました。33年が経過しての第一歩です。

さて、仙台湾南部海岸堤防復旧プロジェクト(東北地方整備局仙台河川国道事務所)のうち、津波により海岸地形の変化が著しい井土浦区間で採用されたCSG海岸堤防(震災瓦礫を資材の一部として活用できる環境に優しい日本で生まれた技術)を見学しました。TP+7.2m、全長 29kmのうちの約1.26km区間での資材混合を前田建設が開発した重力利用型連続式混合装置「M-Y ミキサ」によりCSGを製造しています。装置の詳しい説明も現場見学の際に聞くことができました。会員の島村亜紀子さんが深く関わっておられます。

この堤防の建設経過は、年に数回仙台の母校の用事や帰省の際に利用する飛行機の中から見ていまして“違和感がないなあ”と感じていましたが、直に見ても同様に感じました。また、どこよりもいち早く復旧・復興に取り組んだ岩沼市では、中高の同級生(女性)が深く関わっていたので注視しておりました。“いぐね”の文化を継承した千年希望の丘の見学では、この仙台湾南部海岸エリアで友人のご息が亡くなられたり親戚が被災したりしています。資料館に入った時から背筋がゾクゾクしてどうしてもなかったのですが、鐘を鳴らして亡くなられた方々のご冥福をお祈りしたとたんゾクゾクは収まりました。小さい頃、このあたりの貞山堀周辺は緑が多く、素晴らしい集落の皆様の営みがありました。よく亡き父の自転車に乗せてもらい釣りに行ったものです。

見学会当日は晴天に恵まれ、冬バージョンー着しかない作業着は暑かったです。夫に「夏バージョンがあるから着るか？」と言われましたが大きいと断りました。

懇親会は、きれいに整備された仙台駅東口の洒落た居酒屋で小林千佳さん奮闘のクイズを楽しみ大いに盛り上がりました。

来年は中部支部会場での総会です。若者たちががんばりますので、みなさまのお出かけをお待ちしております。



千年希望の丘で鐘を鳴らす筆者





今回の懇親会で一番の盛り上がりをもせた「ザ・ホームページクイズ」。懇親会場で終わらせるのはあまりにももったいない！ ということで、総会特集オマケとしてまとめました。当会の長い歴史を垣間見ることのできる良問難問ばかりです！ みなさんもチャレンジしてみてください。（正解は 14 ページにありますヨ！）

Q1 第 18 回総会(1999・H11 年)の開催場所は？

- ① 北海道
- ② 関東
- ③ 中部
- ④ 関西



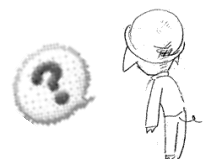
まずは 17 年前の開催地について後ろの特徴ある建物がヒントのようですが・・・。

Q2 国土交通白書 2014 第 2 章「これからの社会インフラのあり方」コラム「ドボジョ」より、○に当てはまる数字は？

- ・大学の土木・建築工学科の女性比率は、1993 年では 9.4% でしたが、2013 年には 16.7% に増加（文科省学校動向調査）
- ・女性の土木・測量技術者数は 5,870 人
：女性比率○%（国勢調査 2010）

次は女性比率について。「1 割もないよねえ」「でも 1% よりはあるかしら・・・」意見が分かれるチームが多いようでした。

- ① 12.2% ② 4.8% ③ 2.4% ④ 1.2%



Q3 第15回総会(1996・H8年)の開催場所は？

- ① 北海道
- ② 関東
- ③ 中部
- ④ 関西



さて再び総会開催場所について！これは写真のみなさんの服装と、右上の看板らしきものが最大のヒント！

Q4 「OCAJ(海外建設協会誌)2014年4・5月号」

「女性の視点から見た海外事業への取り組み」より

阿部玲子さん(株)オリエンタルコンサルタンツ GC事業本部 軌道交通事業部 部長)のコメントより。

「海外の大型案件のコンサルタントサービスにおいては
学歴と経歴が大きなウェイトを占めます。

提出する経歴書には〇〇も性別も記載しません。」

〇〇とは何でしょうか？

第4問は記述式です。阿部玲子さんの記事から。日本ではまず考えられないことです。

Q5 第13回総会(1994・H6年)の開催場所は？

- ① 北海道
- ② 関東
- ③ 中部
- ④ 関西



さらに総会開催地クイズ！ どんどん遊んでいます。写真の皆さんの頭上にあるモニュメントがヒントです。

Q6 国土交通白書 2014 第2章「これからの社会インフラのあり方」 就きたい職業アンケート(男子)より

保育園・幼稚園・小学生のなりたい職業アンケート(第一生命：2012 全国作文コンクールアンケート)男子の部ランキングのうち、
「大工さん」は何位でしょうか？ ※女子はランク外

最後は国土交通白書から。ベストテンには入っているようですが…

正解は、次のページ！！

第4回総会 ザ・ホームページクイズ(正解)

Q1:④関西

会場は『淡路花博ジャパンフローラ 2000 年』の会場準備を進めている工事現場でした。ちなみに、総会の第1回～第11回の開催地は下表のとおりです。え？ 富士5合目！？

回	年	開催地	見学会場所
1	昭和58年1月	東京	発足会
2	同年5月	東京	
3	昭和59年5月	名古屋	
4	昭和60年5月	大阪	千里ニュータウン都市モラル建設現場他
5	昭和61年5月	東京	男性土木技術者との意見交換会
6	昭和62年5月	名古屋	自動車専用道市内インターチェンジ
7	昭和63年5月	大阪	鳥飼仁和寺大橋
8	平成元年6月	富士宮	大沢扇状地遊砂地
9	平成2年5月	富士5合目	大沢崩れ崩壊軽減対策調査工事現場
10	平成3年6月	大阪	関西新空港工事現場
11	平成4年5月	伊東	講演及び研修（女性土木技術者の現場体験他）

Q2:③2.4%

今後のために、この数字は覚えておいて損はなさそうです。

Q3:①北海道

写真は『北海道開発局開発土木研究所』での集合写真です。

Q4:「写真」

写真がないのは、「目や肌の色で区別しないため」だそうです。この問題に正解したのは1チームだけでした！

Q5:②関東

写真は『隅田川ウォータフロント』見学の集合写真です。

Q6:10 位

ちなみに 2007 年は 5 位、2002 年も 5 位だそうです。この問題はニアピン賞として「9位」と書いたチームが正解となりました。

みなさんは何問正解できたでしょうか？ 確か最優秀チームは 5 問正解していたような(スゴイ)・・・総会開催地クイズでは当時の総会準備を担当された方からの苦労話も聞くことができました。東日本支部の皆さん、楽しい企画をありがとうございました。

(クイズ作成:東日本支部、まとめ;深瀬尚子)

これが運営委員会だ！

当会の最大の特徴は、“すべて女性スタッフの手で運営されている”ことです。その中枢である「運営委員会」とは一体どのような場なのでしょうか？今回は総会後に開催された運営委員会の様子と、運営委員会を構成するメンバーを紹介します。

◆開催日時:2016 年 6 月 18 日(土) 14:00～16:30

◆開催場所:前田建設工業(株) 東北支店 8 階会議室

◆参加者:運営委員および事務局メンバー 計 20 名



● 総会修了後 :13:00～

昼食と休憩タイム・・・

午前中に無事総会を終え、ホッとするのも束の間。

午後からの運営委員会の準備のため、あちらこちらで下打合せが始まっています。



● 運営委員会 :14:00～16:30

さあ、運営委員会が始まりました。

まずは渡辺弘子新会長の挨拶から。

そして、今回の総会の振り返り

- ・運営方法についての反省点、改善事項
 - ・資料の修正箇所と修正期限
 - ・運営委員会で議論する項目
- などを確認しました。



その後、総会での報告事項であった

- ・企画広報局の設置
- ・顧問制度の設立
- ・会費の検討

についても議論しました。



休憩なしの約 2 時間半！！

それでも時間内に結論が出なかった項目もあり、

引き続きメール会議で相談していくこととなりました。

改めて“会を運営していく”ということの難しさを感じました。

運営委員会のみなさん、大変お疲れ様でした！

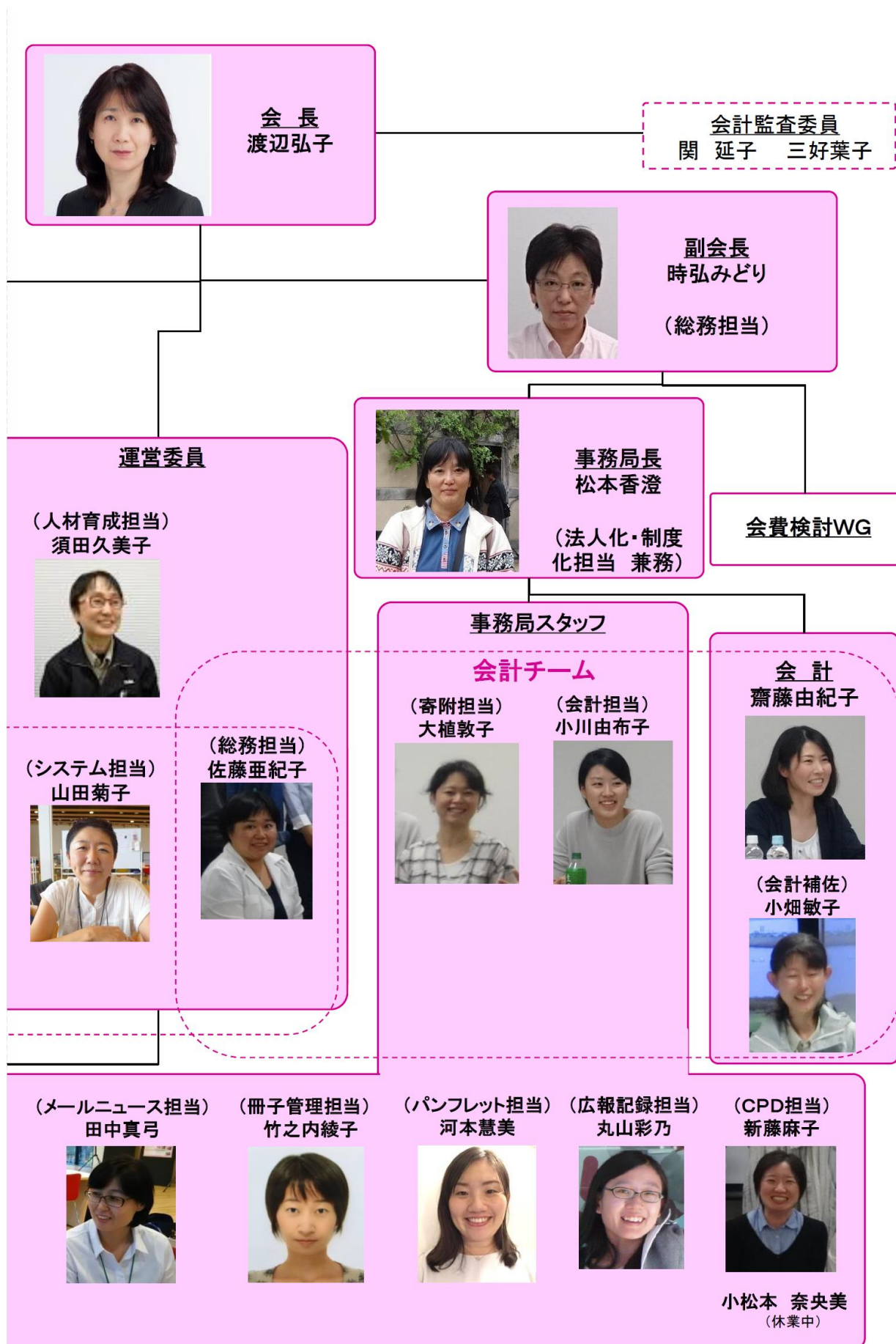
次ページに新しい組織図を掲載しています。

見開きでご覧ください！

(一社)土木技術者女性の会 組織図

 …… 運営委員（常設）
  …… 運営委員（期間を定めて設置）





ちよつと一息

おすすめ防災グッズ

家に、職場に、現場に常備しているもの、
常に持ち歩いている防災グッズを教えてください♡

ここでちよつと一息。

今回のテーマは「おすすめグッズ」第3弾、「防災グッズ」です。これは必須！ これは便利！ というアイテムを教えてくださいました！

まずは基本！ 生き抜いて欲しい！

サバイバルキット

1人1箱ずつ配布された防災キットとヘルメットを各自机下などに保管しています。

「生き抜いてほしい。」というコピーが若干怖いですが、中身は普通。

厚底の運動靴を置いておくのも重要だと思います。



(西日本支部)

サバイバルパンⅡ、あんしん保存水、サバイバルシート G/S、IDホイッスル、携帯トイレの5点セット。
いざという時、あると安心ですね。

家庭の強い味方

不動王

ご存じの方も多いかも知れませんが、自宅にある大型家具の転倒防止用器具として「不動王」という商品を愛用しています。

この商品の特徴は、家具の上部と壁を強力粘着テープで留めるようになっているため、よくある突っ張り

棒のように圧迫感がなく、また壁にビスを打つ必要がないため、コンクリートの壁にも固定できます。

お値段は少々高めでしたが、買ってよかったと思える商品です（まだ家具が転倒するほどの地震に遭遇したことがないので、何とも言えませんが・・・）。

※添付の写真は我が家の冷蔵庫の上に設置した状態です。水平面のどの方向の揺れにも対処できるよう、2か所設置しています。



(東日本支部)

備えあれば憂いなし。人事を尽くして天命を待つ。
やれることはがんばってやりましょう！

意外と重要！

メガネ

私はいつも「メガネ」を持ち歩いています。

普段は視力 0.1 のコンタクト派なのですが、東日本大震災のとき東京で地震に遭って帰宅難民となった際、偶然眼鏡をもっており、コンタクトの交換や手入れが不要だったので助かりました。

以来、いつでもメガネは必ず持ち歩いています。
(本当は生活習慣に気を付けて視力低下を防ぐのが一番ですが…^_^)

(北海道支部)

実は、身近なものほど重要です。私もメガネとコンタクトレンズのケースは持ち歩いています！



まだまだ、続きます・・・・・・！

いつでも便利♡

アルファ米

山登りに行く時も、風邪ひいちゃって食事の支度ができない時でも、風邪なんてひいてないけど食事の支度が面倒な時も、これさえあれば安心！

昔に比べて格段に美味しくなったし、味のバリエーションも豊富です。

水でも戻せるのでお湯を沸かせなくても大丈夫な上、お水やお湯の量が適当でも、雑炊風に食べられるのでこれまた大丈夫。私のおすすめは「ドライカレー」です。備蓄米として大切にとっておかないで、ひと月に一つずつ食べるのがミソです。こうすると毎月新しいものに更新できます。



(東日本支部)

これは、便利グッズですね！ おいしそう・・・

震災時に役立ちました！

携帯電話の充電器と 10 円玉

携帯電話の充電器を持ち歩いている人は多いかと思いますが、実際に、震災時に役に立ちました。

一方、震災時には携帯電話がつかなくなっても、公衆電話ではつながったりするので、小銭を持ち歩くことをお勧めします。公衆電話は東京でもめっきり少なくなっています。自分の行動範囲内だけでも、公衆電話の場所を意識的にチェックしておくとういかもしれませんね。



(東日本支部)

確かに公衆電話が少なくなりましたよね。奥尻島の地震の時は公衆電話が無料になり、無駄に実家に電話したりしました！（ごめんなさい）

確かに公衆電話が少なくなりましたよね。奥尻島の地震の時は公衆電話が無料になり、無駄に実家に電話したりしました！（ごめんなさい）

別の意味でも役立ちそう

ベランダに大量の水

マンション住まいなので、電気が止まると水道もストップ！という事で、トイレ用に何本か用意しています。飲み水は生協で「長期保存用」というものがあったので、2Lを6本、押入の奥に保管しています。



(西日本支部)

う〜ん、すごい。でも実際の災害の時、水は切実ですよね。節水の意識も高く持たなくては！

これが一番重要かも？！

子どもにも防災意識を！

子どもにも防災意識を持ってもらいたくて、保育所で使っていたカバンを再利用し、「自分用の防災グッズ」を作らせました。

(が、中身はオモチャばかりです・・・)



(西日本支部)

すっ、すばらしい！ 意識改革が一番重要ですね。

みなさま、今回もすばらしい投稿をありがとうございました！ 特に、震災を経験された方の一言は実感もっていますね。

災害が至る所で発生しており、日本に、いや地球に完璧な安住の地などないのだと実感します。でも、逆に人間はどこでも生きてゆける力を持っているのですね。賢く、懸命に、ファイト！

【まとめ：井上涼子（北海道支部）】

会員レポート ～土木体験いろいろ～

“土木”の仕事は実に様々！ それゆえ当会にも実に個性豊かでいろいろな体験をしている会員が集まっています！



私の震災体験記

武田 利江（東日本支部）

1978年6月12日の宮城県沖地震、そして2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震。約33年の期間を経て、二つの震災を経験しました。

1978年の地震時は小学生でした。幼い記憶に残っているのは、バタバタ倒れたブロック塀、止まったガスの代わりに石油ストーブで煮炊きしたこと、たらい等で温めた水で行水をしたこと。お椀一つを残して全ての食器が割れてしまったこと。親が「いつも煩い野鳥たちが震災の日はずっと鳴かず、妙に静かだった」と話していたことです。

その時から30年後、宮城県沖地震の再発の可能性は99%とも言われていましたので、結構前から震災対策の準備は充分にしていたつもりです。しかし、実際には想定外のことがたくさん起こりました。

揺れが始まった時は運転中でした。進行方向は西方面。地震は東西に揺れましたので、車体が前後にノックするような感覚が走ったのを覚えています。すぐに路肩に停車し、外の様子を伺いましたら、目の前のマンションの屋上にある給水タンクは揺れに合わせてザバザバと水を噴き上げていました。

通常は時速60～90kmで行きかう仙台バイパスでは、停車している車や戸惑う人で大混乱。それを避けながらソロソロと運転するというのは衝撃的でした。

「この状況では我が家はベシヤンコになっているかも」と覚悟しましたが、健気にも揺れに耐えておりました。しかし、土壁がトイレを埋めてしまい、困ったことに。初めは、「コンビニで借りればいいさ」と楽観的に考えていました。しかしご存じの通り、コンビニすらも閉まってしまうまさかの事態に、トイレを貸してくれるところを求めて、停電して真っ暗な街中をさまよう羽目に陥りました。幸い区役所でお借りできましたが、給水タンクの水が切れれば封鎖せざるを得ないと言われ、がつくり。仕方なく、真夜中に懐中電灯の灯りを頼りに土壁撤去を決行することになりました。余震に停電の中、手探りでトイレの土を掻く。これは一生忘れられません。

震災直後の2週間に特に役立ったものを思い出してみました。

お役立ち第1弾はずばり！「反射型ストーブ」です。上記のとおり1978年の地震で役に立っていたので、手元に置いており、今回も震災初日から大活躍でした。ファンヒーターは停電時には使えませんが、反射型ストーブは灯油さえあれば使えます。暖を取るだけでなく、お湯を沸かしたり煮炊きをしたりと本当にお役立ちでした。

お役立ち第2弾は、シガーソケット充電器。停電の最中、情報源となったのは電池式ラジオと、携帯電話のワンセグTVでした。特にワンセグの情報は被災地がどのような状況にあるか映像で確認できるのでありがたかった。電池残量がなくなるたびに車へ走り、充電したものです。

そして、第3弾は「ガソリン・灯油」。偶然にも震災前日の夜にどちらも満タンにしておき、助かりました。本当に虫の知らせがあったとしか思えないタイミングで給油しており、「もしかして私、護られている？」と

真剣に思いました。あの時はしばらくガソリンが手に入りませんでした。「エンストです」と貼り紙をして放置された車をあちこちで見かけたものです。

どこのガソリンスタンドがオープンしているか、何時から引換券を配っているのかなど口コミ情報が飛び交いました。県庁前のGSには私も並びましたが、仙台のメインストリートを車道2列目で待つという通常ではありえない体験をしました。あれ以来、「ガス欠恐怖症」になってしまったようで、ガソリンメーターが半分を指すと不安にかられてすぐに補給してしまいます。

お役立ち第4弾は、普段使い用のレトルト食品・乾麺・乾物・野菜ジュースです。幸い我が家はその方面がかなり充実しておりました。ですから、ニュースにあったような“食料を求めて長蛇の列”に並ぶことはほとんどなく、いつ購入したかわからないものまでせっせと消費しておりました。

一方で、意外に役に立たなかったのが、我が家の防災BOX。一般的な防災グッズ以外に鍋やヤカンなども入っていたのですが、結局使用したのは食べ物・水・乾電池くらいでした。

あればよかったと思ったのは、「手回し充電式懐中電灯」。乾電池懐中電灯はいつ電池切れになるかわからなかったのも、非常用として、必要最小限の使用で我慢しました。夜は基本的にロウソクの薄暗い灯りで過ごしたのですが、結構暗いうえに、火事の不安がいつもありました。

乾電池は放電してしまう為、防災BOXにあまり入れていなかったことを本当に悔やみました。乾電池を求め、開いている店を駆けまわりましたが、まったく手に入りませんでした。

思いがけない素敵な経験も二つありました。一つは、ご近所との協力関係です。揺れが続く中、みなでブルーシートを持ち寄り、協力して屋根瓦が落ちないように補強しました。不便をしている人がいないか聞いて廻ったり、手持ちのものを分け合ったりしてお互いに支え合えたのは良かったです。

二つめは、夜空に瞬く満天の星空を見られたことです。停電で真っ暗な仙台の夜空にあそこまで輝く星空を見たのはいつ以来か…。見事な天の川に、本当に見惚れました。悲惨なニュースばかりの中で、心休まるひと時でした。

震災は、思いも掛けない時に思いも掛けない形で、例外なく“誰にでも”降りかかります。我が家は今年、非常用食料の入れ替えを行いました。またいつか必ず来るであろう、その日のために。

みなさんも、いつ震災が来ても対処できるよう、**心の準備と物質的な準備**を怠りなく。



震災の津波にさらされた荒浜地区のガソリンスタンド
津波はこのスタンドをすっかり飲み込んだそうです。



防風林と瓦礫に埋まった仙台平野



仙台空港周辺



長大橋に憧れて

松浦 葵（西日本支部）

私が土木系の大学に入るきっかけをくれたのは父でした。父は自衛隊のパイロットでしたが、若いころは基地内の橋を作ったりしており、大学選びに悩む私に土木という選択肢を与えてくれました。そして特にやりたいことがなかった私は、水泳部だったため海があるところがいい、土木には海洋工事や港湾工事があるという理由で、琉球大学に入学しました。入って一番びっくりしたことは同級生に女性が 2 人だったということです。それまで何も気にしていない私も私ですが、入学して初めて男性が多い業界ということを知りました。

最初は水工学をやってみたいと思い入学した私でしたが、勉強していく中でコンクリート橋の解析にとっても関心を持ちました。そしてコンクリート系の研究室に所属し、当時建設中であった伊良部大橋の解析を卒業研究にしました。その中で実際に宮古島に行き、現地を見学する機会がありました。宮古島には他にも長大橋があります。橋をパソコンの中でしか見ていなかった私はそのスケールの大きさに衝撃を受けました。「いつか私もこんな橋を作りたい！」という気持ちが芽生えた瞬間でもありました。

その後大学院に進み、大学院を修了後、プレストレストコンクリート橋専門の会社に就職しました。実家のある九州で働きたいと思っていたので、まさか福井に行くことになるとは思っていませんでしたが、若いうちにいろんなところに行っておきたいという考えもあり、入社を決めました。

私は入社前から現場に出たいと思っていましたが、同期がどんどん現場に配属される中、いくら頼んでも現場には出してもらえませんでした。しまいには「支店に行ってからにして」と言われましたが、粘り強く言い続けました。そんな中、会社が私の出身大学がある沖縄の現場を受注することができました。このチャンスを逃すわけにはいかないと思い、直属の上司だけでなく、現場代理人にも頼みに行き、たくさんの方々の力添えで念願の現場デビューを果たしました。

今は 2.5 径間 PC・鋼連続混合箱桁橋の現場に従事しています。安全管理や写真管理、検査準備、打設前準備などが主な仕事です。現場に出て 2 ヶ月なのでまだまだわからないことばかりですが、先輩方や作業員さんたちに教えてもらいながら日々奮闘しています。戦力になるためには時間が必要ですが、毎日できることが少しずつ増えていくのでこれからも精進していきたいと思います。また、女性目線でもっと働きやすい環境を整備していきたいです。隣の現場には研究室の後輩がいたり、周りにも大学時代の友人がたくさんいたりするので、相談相手が近くにいてとても心強いです。残り 1 年、現場でしっかり学んで、現場も設計もできる女性技術者を目指していきたいと思います。



現場の横断幕



現場内栈橋上にて海をバックに



柱頭部施工状況



おもしろがって、おもしろがられて、いまに至る

阿部 友美（東日本支部）

ヘルメットに長靴、安全チョッキ、そしてカメラと腰道具。ドボク屋の「正装」をして現場に立つと、一様に「めずらしいですね！」と言われる。その理由は言わずもがな、私が女性であるという点に尽きる。「よく言われます」と、にこやかに応じるものの、最近少々うんざり気味というのも、実は本音である。

そもそも、志をもって入ったセカイではない。好奇心と探究心に任せて、目の前の課題を解いていった結果が、「いま」である。現在の職場に在籍するようになってからは、出身大学を尋ねられることも増えた。世の中とはこういうものか、と妙な感心をしながらも、「公立高校普通科卒です」と答えるのだが、これがさらに「めずらしい！」「おもしろい！」と言われることにつながるのである。

地元公立高校普通科を卒業後、福祉系専門学校へ進学。ボランティア活動をしていた経験から、創設されたばかりの国家資格で社会の一端を担う考えていた。在宅福祉制度の確立に携わりたいとの思いから、地方公務員となる。採用面接で、「せっかく福祉の最前線を学んできたのに、建設課に配属になったらどうしますか。」と問われ、「道路や公共施設の設計・施工は、バリアフリーとします。」と答えたことは鮮明に記憶しているが、何かの伏線だったのか。企画調整課配属となり、事業計画策定のためのワークショップ運営や、広報広聴を担当すること4年。私をよく知る公務員OBから、地元建設会社を紹介される。社長との面談で、経営方針や事業計画、私に期待することを聞き、転職を決意。工務の傍ら、現場へ出向いては、実際に資機材や作業を見て、知識を補完した。「せっかく来るなら手伝って」との現場からの要望もあり、管理や測量を手伝ううちに実務を学び、現場代理人を経験。そんな流れで、土木施工管理技士の資格を取得。土木のどの字も知らない私に、おもしろがって様々な経験をさせてくれた社長や同僚、作業員のじいちゃんたち。カケヤを振って丁張を掛けたり、鋤簾を持って基面整正したり、まさに土と汗にまみれながら、ドボクのいろはを学んだ。現場と並行して、就業規則の改定や、IT化に対応する社内環境の構築にも取り組む。積算・入札業務のほか、提案書作成やヒアリングにも対応。ちいさな会社であるがゆえ、経理以外はなんでもやった。とにかく、すべておもしろかった。

「これまで経験したことのない案件に携わり、技術者として成長したい。」

東日本大震災を経験し、地元業者として緊急工事に従事したことから、そんな意識が芽生えた。キャリア採用を受け付けていたゼネコンにエントリーすると、職務経歴をおもしろがってくださり、採用が決まった。16年間お世話になった会社は、私のチャレンジをおもしろがって、快く送り出してくれた。

転職して最初の現場はトンネルだった。着手から竣工まで従事したのだが、高卒の中途採用者（しかも女性）をトンネルに配置する人事も、これまたおもしろいと感じる。私の経歴をおもしろがってくださる方々とのご縁に恵まれたことには感謝しかないし、宝物以外の何物でもない。

【会員のみなさまへ】「土木体験いろいろ」募集！

「輪」では、会員のみなさまの様々な体験レポートを募集しております。ちょっと変わった現場、不思議な体験、忘れられない思い出・・・土木に関することなら何でも結構です！詳しくは「輪」編集委員まで！お待ちしております。

連絡先（「輪」編集委員）：rin@womencivilengineers.com

イベント報告

- 日時
- 場所
- 参加者

【全体】

■総会前運営委員会

●2016年4月16日(土)

13:00~17:00

●キャンパスイノベーションセンター 408号室(東京都港区)

●運営委員会メンバー

6月に開催予定の総会に向けて、熱い議論が交わされました。詳細については、総会資料の運営委員会議事録をご覧ください。

■第4回総会

(⇒詳細 p.2)

■総会関連イベント:(1)現場見学会 (2)懇親会

(⇒詳細 p.4)

■総会後運営委員会

(⇒詳細 p.15)

■ドボっこの杜カフェ

●2016年9月7日(水)~9日(金)

●国際センター駅 2階多目的スペース(仙台市青葉区)

●3日間で65名(うち、会員19名)

平成28年度土木学会全国大会で、交流の場となるカフェを、土木学会と共催しました。真夏

日と台風の大雨の中、ご参加くださったみなさん、ありがとうございました。



【北海道支部】

■札幌開発建設部女性技術職員との現場見学会および交流会

●2016年7月4日(月)

11:30~16:00

●札幌開発建設部 会議室(札幌市中央区)、新石狩大橋(国道275号)

●33名(うち、会員10名)

「今の職場に就職してよかったこと」をグループトークした後、橋梁拡幅工事(ニューマチックケーソン工法)の施工現場を見学しました。



【東日本支部】

■土木学会東北支部コラボ「若手技術者交流サロン」

●2016年1月29日(金)

17:30~20:45

●エル・ソーラ仙台 大研修室(仙台市青葉区)

●会員3名(東日本:3名)、非会員25名(うち男性9名、女子

学生1名)

はじめに「土木技術者としての役割とエピソード」をテーマとして、2名が講演を行いました。

一人目はコンサル勤務3年目の方(非会員)で、社内の海外研修制度の紹介と、その研修に参加した感想、将来の抱負について発表しました。二人目は会員の渡辺弘子さんで、東北大学大学院産学官連携研究員の立場で、東北の被災自治体に対する支援活動と、自身のワークライフについて発表しました。

その後は会場で懇親会を兼ねたフリートークとなり、参加者が自由に席替えをして話に花を咲かせました。土木学会東北支部との共催のため男性の参加者も9名あり(土木学会幹事含む)、また、「若手技術者」と題しているものの参加者の年齢層は20代~50代と広くダイバーシティを感じられるサロンでした。昨年7月に引き続き2回目の開催ですが、好評のため今後も続ける予定です。

■じゅうたく小町さんとの交流会

●2016年7月15日(金)

19:00~21:30

●つばめKITCHEN丸の内オアゾ店(東京都千代田区)

●6名(会員3名/全国低層住宅労務安全協議会 じゅうたく小町部会 3名)

ハウスメーカーに勤務する女性技術者で結成されたじゅうたく小町のみなさんと、初めての交

流会を開催しました。

(⇒詳細 p.27)

■ダムカレー施工教室

●2016年7月31日(日)

12:00～15:00

●割烹 三州家(東京都墨田区)

●会員10名(+お子さん2人)

＊土木学会誌に報告記事が掲載されています

(学生レポート「土木技術者女性の会『ダムカレー施工教室』開催報告」土木学会誌 Vol.101 No.11, pp69-70, 2016.11)



【西日本支部】

■(1)支部会、(2)新年会&懇親会

●2016年2月6日(土)

15:30～21:00

●和楽(大阪市中心区)

※(1)、(2)共に

●(1)16名、(2)17名

2015年度の活動及び会計報告、2016年度の支部役員選出&活動計画等を話し合った後、美味しい食事とお酒をいただきながら、新年会を開催しました。今回の新年会では趣向を変え、学生会員の方にご参加いただいたので、社会人の先輩方への質問事項を事前に受け付け、参加者の皆さんには、その質問に答えつつ自己紹介をしていただきました。

■土木学会西部支部主催 阿部玲子さん講演会(西日本支部後援)

●2016年3月5日(土)

16:00～17:30

●九州産業大学 8号館3階 8315教室(福岡市東区)

さすがが我らの阿部玲子さんです。会場は学生さんから年輩の方まで幅広い年代の方が集まり、

ほぼ満席状態。講演では、活躍の場を海外に移すことになった経緯や、その後のご経歴を紹介され、コンサルタントの役割やキャリアメイクの重要性、またご自身が携わったインドのメトロ事業の実例などをお話いただきました。終了後も直接阿部さんとお話をするために並ぶ人は絶えず、大盛況のうち閉会となりました。

■国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所主催 座談会『省力化を図る労働環境イノベーション』

●2016年8月4日(木)

15:00～16:30

●和歌山河川国道事務所(和歌山市)

●会員3名

(⇒詳細 p.28)

■勉強会

●2016年8月28日(日)

10:30～12:00

●清水建設(株) 関西支店(大阪市中心区)

●会員16名(正会員15+学生会員1)

○講師と演題

「女性技術者として今後活躍していくためには～学生の現状から考える「就職活動」～」／「橋梁メーカーの業務について」／「特許について」／

日曜日の午前中の開催にも関わらず多くの参加者があり、講師も内容もバラエティに富んだ勉強会は大変好評でした。終

【中部支部】

■新年会

●2016年2月21日(日)11:30～13:30

●CAFE&バル AJIT(名古屋市中村区)

●会員10名(+ご家族3名)

お互いの「今」を楽しく、そしてまじめに報告、相談しあいました。

■支部会

●2016年7月31日(日)

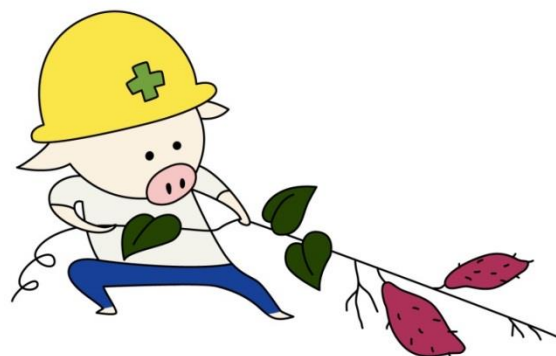
11:00～14:30

●(株)日本ピーエス名古屋支店会議室、なな福(名古屋市中村区)

●会員4名

来年の総会と、現場見学会の企画について打合せました。

了後に会場付近のお店でランチ
会を開催しました。支部の活動
に初めて参加した会員も多く、
自己紹介や勉強会の感想など
でランチ会も盛況に終わりました。



イベント報告：東日本支部

じゅうたく小町のみなさんとの交流会

- 日時：2016 年 7 月 15 日（金） 19:00～21:30
- 場所：つばめKITCHEN丸の内 オアゾ店（東京都 千代田区）
- 参加者：6名（土木技術者女性の会 東日本支部 3名／
全国低層住宅労務安全協議会 じゅうたく小町部会 3名）

梅雨明けが待ち遠しい初夏のころ、会社帰りのビジネスマンたちで賑わう丸の内のビアレストランにて、ハウスメーカーの設計・施工部門で働く女性により結成された、じゅうたく小町（※1）のみなさんと、東日本支部の有志による交流会を開催しました。

住宅業界というと女性の雇用が進んでいるように思いますが、他の建設業界と同様に、男性が多い職場であるのが実情です。特に現場の施工管理者や本社の管理職となると、業界で活躍している女性はほんの一握りだそうです。近年になりようやく、そのことが業界内で問題視されるようになり、日本建設業連合会の「けんせつ小町」に続く形で、「じゅうたく小町」が誕生しました。活動については、まだ手探りの状況で、何かアドバイスをということで、土木技術者女性の会との交流会が実現しました。

土木建設と住宅建築の違いは何でしょうか。まず思い当たるのは、でき上がる構造物の大きさです。また、土木の現場は人里離れた自然の中に多くあるのに対し、住宅の現場はたいてい町中にあります。さらに住宅の場合、完成までにかかる年月は長くても半年から一年、作業員の数も多くて数人ですから、土木とはまったく違います。このように書くと、住宅建築はとてもソフトで、女性に向いている仕事のようにも思えますが、実際に働いている方々の話を聞くと、とてもタフな業界であることが分かります。

住宅の建築現場では、施工管理を一人で、さらに複数の現場を掛け持ちして担当することがよくあるそうです。もし病気で寝込んででも代わりがないため、自宅から電話で現場に指示を出さなくてはなりません。それに加え、施主との信頼関係がとても大切なため、施工の途中で担当者を交代することも難しいといえます。施主により要望もさまざまで、休日を返上して対応を求められることもあります。

これらの状況は子どもを抱える女性にとって非常にハードルが高く、子育て期間中は、お客様と直接会うことのない設計部門に異動するケースもあるそうです。

住宅は小規模な建築構造物ですが、施主にとっては、一世一代の大きな買い物です。彼らの不安と期待を一身に背負って任務を遂行する責任の大きさは、土木事業に勝るとも劣りません。

また、国や自治体など公共機関から受注することが多い土木事業に対し、個人から受注する住宅建築は、製造業よりもサービス業の要素が高く、コストを重視している点も、業務の大変さに拍車をかけているのかも知れません。

大手ハウスメーカーで、数少ない女性施工管理者として働く、あるじゅうたく小町の方は、現在複数の現場を抱えながら、本社の研修やじゅうたく小町の活動にも精力的にこなしているとのこと。女性用に作られたヘルメットとパット付きの安全帯を現場で着用されています。以前のものより身体にフィットする

ので、サイズが合わずにズレるという心配もなく、腰痛も改善したそうです。過去には女性というだけの理由で、施主から担当者の交代を求められ、悔しい思いをしたことも。でも今は、キャリアを着実に積み上げ、女性でもよく頑張っているとお客さんから褒めてもらうことも多くなったそうです。

人と話すのが好きだからこの仕事を続けているという言葉の通り、みなさんとてもお話し上手で、ざっくばらんにお互いの業界の現状と問題点について語り合うことが出来ました。

これを機に、女性技術者のための職場環境の改善について、意見交換を継続していけたらと思います。



じゅうたく小町のみなさんとレストランにて

*1) じゅうたく小町ウェブサイト <http://www.j-komachi.com>

報告：鈴木明子(東日本支部)

イベント報告：西日本支部

国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所主催 座談会
『省力化を図る労働環境イノベーション』

□日時：2016年8月4日(木) 15:00～16:30

□場所：和歌山河川国道事務所

□参加者：国土交通省 和歌山河川国道事務所

寺沢直樹事務所長ほか 2名

和歌山県建設技術協会 2名

(うち、当会会員 1名)

当会 西日本支部 3名

夏の日差しが照りつける「水の国」和歌山県にて、国土交通省和歌山河川国道事務所主催の座談会が開催され、司会を務めた当会の村上育子企画広報局長を含め、当会の会員 4 名が出席しました。

テーマは「省力化を図る労働環境イノベーション」。子育て中の女性技術者を中心に、仕事と育児の両立の苦労話、それでも仕事を続けている「土木」の魅力、限られた時間の中で成果をあげるための工夫や、将来こんなシステムが欲しい、こんな便利が道具があれば助かるのに！といった夢のような提案まで、幅広く議論しました。



特に国土交通省が推進する i-Construction による仕事の効率化や省力化については、ドローンを遠隔操作して事務所にいながら遠方の現場の状況を常に把握できるようなシステムで、移動時間を短縮する案、3D化できる図面（飛び出す絵本ならぬ、飛び出す図面！）で施工のポイントを事前に見出し、手戻りを防ぐ案、あらゆる管理台帳を全て1つの端末に集約し、災害時の早期復旧や効率的なメンテナンスに利用する案など、夢のような道具と言いつつも具体的な提案が次々と出てきました。



最後に寺沢所長より、「われわれの仕事の中心は現場である一方で、時間の効率化も重要な課題。今回の案はすぐには実現できないが十分にイメージできる内容であり、貴重な提案となった」との言葉をいただきました。



また、当会の村上局長からは「将来の土木の担い手のため、子どもたちに土木の魅力を伝えるための良い方策はないか」との投げかけがありました。これについては「楽しそう！と思ったら子どもは興味を持つ。構造物ができて上がるまでの流れを体感できるゲームがあれば“ものづくりって楽しい！”と興味を持ってもらえるのでは？」「予算の上限や地元説明など、リアルな土木の仕事が組み込まれていればもっと面白い。ちょっと大人向けだけど…」などのアイデアや、「現場の見学会も1回だけでなく、定期的を開催することによって、構造物がどんどんでき上がっていく過程を見てもらえる。その方が土木の魅力を伝えられるのでは？」という提案がありました。

今回は子育て中の女性技術者がメインという事で、子育てに関する苦労話（特に“魔の夏休み”の過ごし方など・・・）で盛り上がるとともに、保育所に迎えに行くまでのギリギリの時間で成果を出していることや、家族・親戚・職場や近所の方々まで、周囲のいろいろな方の協力を上手に得ていることなど、みなそれぞれ自分の置かれた環境の中で工夫しながらキャリアを続けていることを共有できた貴重な座談会となりました。

報告：深瀬尚子（西日本支部）

メディア掲載

会のウェブサイトにて最新情報を掲載しています。

<http://www.womencivilengineers.com/related-article>

サポーターおよび新規会員募集

一般社団法人土木技術者女性の会では、当会の活動をさらにパワーアップするため、私たちの理念に賛同し、継続して活動を応援して下さる「サポーター」を広く募集いたします。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします！

<http://www.womencivilengineers.com/archives/1991>

寄附制度のご案内

土木技術者女性の会は、土木学会誌(1982年9月号)に掲載された「座談会：女性土木技術者おおいに語る」がきっかけで1983年1月に発足しました。任意団体として30年の長きにわたり活動をし、2013年11月18日(土木の日)に一般社団法人土木技術者女性の会として新たなスタートを切りました。全国規模での総会、見学会やセミナー、シンポジウムや支部による活動などを通じて、女性土木技術者、将来の女性土木技術者に対して幅広い年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の場、キャリア継続支援の場を提供しています。

つきましては、当会の社会貢献活動への取り組みをご理解いただき、是非、一般社団法人土木技術者女性の会への御寄附をお願い申し上げます。

<http://www.womencivilengineers.com/donation/guidance>

＜編集後記＞

深瀬尚子(編集長／西日本支部)

編集長となって初めての「輪」、なんとか発行までこぎつけることができました！ 総会が終わってホッと息をつく暇もなく、今回の原稿を仕上げてくださった東日本支部の方々、楽しいレポートを書いてくださったみなさまと「輪」編集チームのメンバー、危うい私を優しくフォローしてくださった箱田前編集長、本当にありがとうございました。

井上涼子(北海道支部)

2016年は激動の年で、個人的にとっても忙しく編集委員のお仲間には大変ご迷惑をお掛けしました。独身で勝手気ままに仕事をしてきた自分には「何かをしながら仕事をする」という動きが掴めず現在も四苦八苦しています。来年はお役に立てるように頑張ります！

鈴木明子(東日本支部)

今回の目玉は、編集長自らが筆を振った、運営委員会のフォトレポートです。運営委員会は裏方(そしてボランティア)の仕事ですが、会員のみなさまにも関心を持って頂けると嬉しいです。

森瀬真琴(中部支部)

今回の総会は仙台で開催されたこともあり、みなさんの感想で多くのことを考えさせられました。私が住む中部地区も南海トラフ地震が想定されており、会社に靴を置いたりと少しずつ防災意識を高めています。今回の「輪」でもたくさんの方に協力していただき、さらに編集長の深瀬さんが素敵に編集してくださって、心がほっこりする「輪」になりました。みなさま、ありがとうございました！

菅直子(西日本支部)

今回から編集委員になりました菅直子です。どうぞよろしくお願いいたします。今回の「輪」では、(一社)土木技術者女性の会の組織体系を顔写真付きで分かりやすく説明していただいております。初心者の方でも、会の全体像が把握できて、とても勉強になりました。みなさまも、ぜひご覧ください。

「輪」への投稿・ご意見は「輪」編集委員へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は事務局まで、お願いします。

「輪」編集委員：rin@womencivilengineers.com

事務局：infoswce@womencivilengineers.com

【「輪」編集委員】

深瀬尚子(編集長／西日本)

井上涼子(北海道)

鈴木明子(東日本)

森瀬真琴(中部)

菅直子(西日本)

【事務局】

松本香澄(事務局長)

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷三丁目1番9号矢沢ビル4階

TEL 050-3738-4975

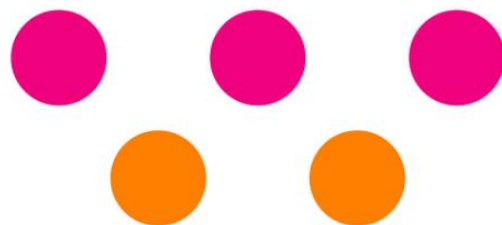
<http://www.womencivilengineers.com>

「輪」2016年度 総会特別号(第60号)

2017年 1月 4日発行

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers



The Society of
Women Civil Engineers

一般社団法人 土木技術者女性の会
「輪」 2016 年度 総会特別号(第 60 号)